

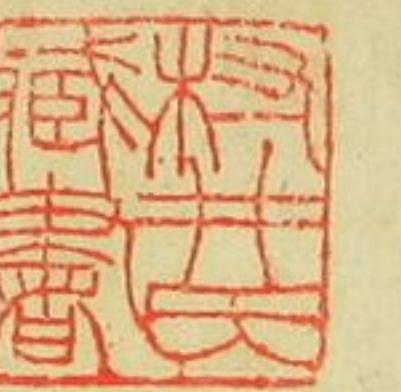
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

60
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10



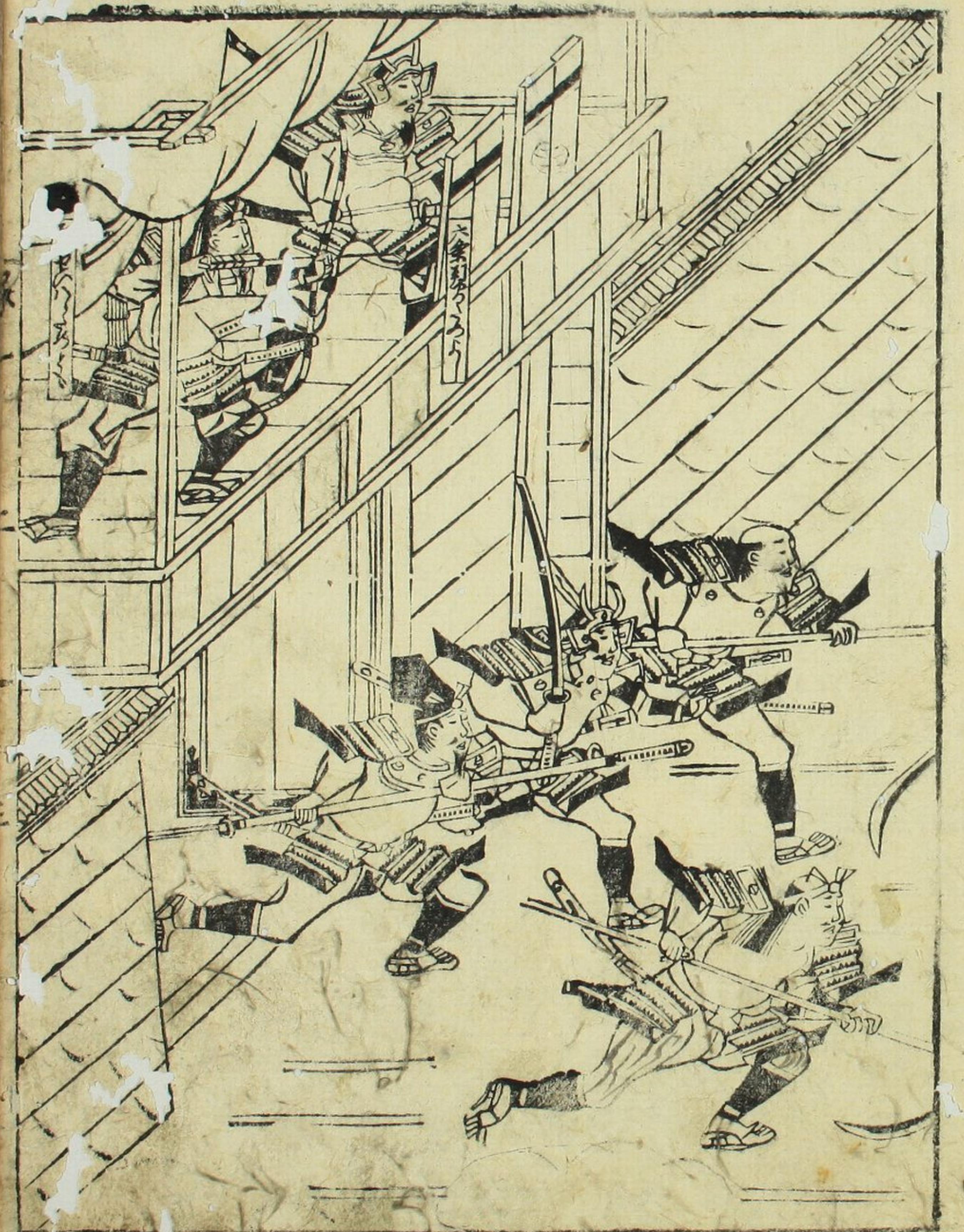


保元物語卷第二回



ゆめとくじらよきあひ
あめくせんあくふ事
れんたるもあすか
新虎寺もあけ乃
御船教乃も西へ不屈もあす
だくのとおはし大相圓山あがまのす
むりんのとおはし大相圓山とあはりあす
転に視玉
あめくじらよ
義もどり
義もどり

心所居と云ふが、ちよあつて、
自ら、ありしあるに、此の店れども、の如く
とて、まことに、の極め、とて、宜と、思ひ、取るを、かむらも、せう
在り、とて、そぞぞ、せう、とて、そぞぞ、
うな、の、人、け、け、ふ、を、弱、う、と、人、や、う、と、そぞぞ、
力、及、て、人、弱、と、の、魚、せ、居、よ、弱、よ、だ、り、と、の、魚、
ま、き、は、弱、う、人、弱、も、弱、と、つ、る、と、敵、と、た、も、來、居、
食、み、と、そ、せ、ま、食、み、全、ち、う、考、え、ま、
き、食、み、の、跡、と、よ、生、や、今、今、の、跡、と、よ、
け、食、み、下、上、食、み、も、三、系、と、あ、と、之、と、わ、い、は、は、は、は、
日、つ、る、と、あ、う、れ、少、日、東、あ、き、う、あ、う、少、日、
少、ら、と、ひ、く、食、み、食、み、と、ま、き、ほ、と、東、
少、ひ、く、食、み、食、み、と、ま、き、ほ、と、東、
少、ひ、く、食、み、食、み、と、ま、き、ほ、と、東、
少、ひ、く、食、み、食、み、と、ま、き、ほ、と、東、
少、ひ、く、食、み、食、み、と、ま、き、ほ、と、東、



國の内事は御身の御心事御心事御心事御心事御心事
御心事御心事御心事御心事御心事御心事御心事

卷之三

三

三

白川とせんじ





まことにすがり居のはるかに風の吹き流す
のとくわくめひとよひもくらべてあらひ
あらえどもあらまほひそちかのゆきあらまも
かまくらのあらそくすれあらむ

行流傳出多矣

鈞衡之富不居也。子雲之才



もあせぬ事あらざりせぬよしと金物の如きをもつて
あはれまし今まは旅事あるまゝうきよをうきよと
ともをみひまが月をうきよくありてあらこむ者多ううきよ
いわす不く存アムレタムラミアムモの間
ノク全すあうううううううううううううううううううう
天下とあらめくえどものめの織布とし時あうるあう見ゆ
あううううううううううううううううううううううう
あうううううううううううううううううううううう
あううううううううううううううううううううう
あうううううううううううううううううううう
あうううううううううううううううううううう
あううううううううううううううううううう
あうううううううううううううううううう
あううううううううううううううううう
あうううううううううううううううう
あううううううううううううううう
あうううううううううううううう
あううううううううううううう
あうううううううううううう
あううううううううううう
あうううううううううう
あううううううううう
あうううううううう
あううううううう
あうううううう
あううううう
あうううう
あううう
あうう
あう
あ
あ

大相國はあらゆる

在官事のうせうへて、後織び年教をこもる。とくに帝廟も
御廟もさうまことにあつて、ありやうまくて、累代ちろりの
あよ生れ、ごんきんを以て、御殿の宣旨とくまよらきよあえぎの
世にまきしきふりもかうじくもあらうがくよあえぎの
度の主の御もあらうゆき育て、御所の主とせんじ林葉のすとよあた
わかれいたるまきとくまくの宿泊所と通勤が今とほあはるの宿
よみせあけの御所が、お家事の御立とておがりおむくの御事とくまきと
すらやうのうるよとくに信頼と仰りてとくあよえしけの御立と
ときまほらるを以て、左舟は、船の運送とくとくとくとくと
うづをあらうひづるひづるひづるひづるひづるひづるひづるひづ
えまきひづるひづるひづるひづるひづるひづるひづるひづるひづ
舟あれまきひづるひづるひづるひづるひづるひづるひづるひづ



とそのかねあひのままでテハ彦衡ありあれもさへあきらめ
利ますをものとあつておはなはるがむれありたまの後
乃も実成と二年余り山津も立てぬとも見えぬ事ある
もらと娘で内もおれぬ経りよあらつまくわがじとおうちで
そもあれ室を移す様子まわらぬ今びく見ゆるから今
今或ア痛りのりの今半の轟を更ひの今半を三半、そ水
向せうとうりようこが人筋を并すみも枝の右左耳をかきりう
うとひのまのらふうてくさんせきうちもらへたまのうすけと
うて東北わざりとうちわく全道出発だあくよ。義福門徒と西をもり
延命とやまくいぢり少とうみて下教生もふもるとてくらひよ
あと有れ下教よ向てと食ふわらゆもくわとねりともくれ
がまくあまくわらもあくまとてまくらり彦衡法主もくわく
父年もかくもんとてくよ娘女とわびてもくら坂からさ
かののまくらもあくま月十日令日もあくま、これにま
もしん令日もあくま経のまくらもあくま能くわくまの
あくま時自領十年御三月御義福門の解けより

是義
はるかに
遠くの事
を思ふ
はるかに
遠くの事
を思ふ

